関西生コン弾圧事件ニュース NO.77　2022年7月18日
＜本号２ページ＞

●本号の内容　第３次長野県オルグ・・・

ドキュメンタリー映画

『ここから ～「関西生コン事件」と私たち』

映画『ここから ～「関西生コン事件」と私たち』は、「関西生コン事件」の真っ只中で生き、働き、たたかう組合員の姿を描く。レイバー映画祭で上映されるのはその試写版で60分。**（写真は、映画の一場面）**

監督は、『フツーの仕事がしたい』でドバイ映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞を受賞した土屋トカチ。制作は全日本建設運輸連帯労働組合。

映画祭の広告には次のような紹介文が掲載されている。

「襲いかかる警察。つぎつぎに逮捕される組合員。ストライキやビラまきなど当たり前の労働組合活動が、日本ではいつから組織犯罪とされるようになったのか。無法地帯と化した生コン業界で、組合員という理由だけで仕事も奪われていく――。逮捕された組合員のべ８１人、組合脱退者５００人以上。戦後最大規模の組合弾圧事件＝「関西生コン事件」は、仲間と家族を引き裂き、強さを誇った組合は壊滅的危機に陥った。だが、踏みとどまって、苦しみながら、もがきながら、ここから運動を立て直そうとする確かな胎動がある。関生支部の真実と現在を、ひとりの女性ドライバーを中心に描き出す。」

秋から全国各地で上映運動がとりくまれる予定だ。